

特定研究集会（ 課題番号 : 30C-04 ）

集会名： 第9回総合防災に関する国際会議

研究代表者：横松 宗太

開催日：平成 30年 10月2日 ～ 10月4日

開催場所：University of New South Wales (UNSW), Leighton Hall, John Niland Scientia Building

参加者数： 119名（所外 102名, 所内 17名）

- ・大学院生の参加状況： 6名（修士 1名, 博士 5名）（内数）
- ・大学院生の参加形態 [研究発表]

研究及び教育への波及効果について

本会議では「総合的災害マネジメントに向けたデータ主導のアプローチ(Data Driven Approaches to Integrated Disaster Management)」をテーマとし、総合防災の実践のために、主体間・分野間でビッグデータをいかに整備して、共有し、活用していくかについて多角的に議論した。現地事務局であり、ビッグデータ整備に取り組むオーストラリア連邦科学産業研究機構(CSIRO)も中心となって、今後の国際的な災害データのマネジメントの在り方について活発な意見を交わした。今回は初めてのオセアニアかつ南半球での開催であり、オーストラリアやニュージーランドからも多くの参加があった。世界の一線の防災研究者や実務者達が、最先端の情報通信技術や、現場の実情と要請に基づいて、数量的・質的な災害・防災データをどのようにストックし、利用していくべきか、それを総合防災の発展にどのように結び付けていくかを討議したことは、総合防災の分野の発展にとって極めて有意義であったと考えられる。また、恒例の若手研究者セッションでは、博士課程学生たちが口頭発表とポスター発表を行い、シニアの研究者から熱心なコメントや指導を受けた。優秀な発表への表彰も行われ、学生達は今後の研究活動に向けてさらに意欲を高めていた。

研究集会報告

(1) 目的

国際総合防災学会は岡田憲夫教授（当時の本所の教授、現在は名誉教授）を会長、多々納裕一教授を副会長として2010年に設立された。現在も防災研究所より、多々納裕一教授（副会長）、アナマリア・クルーズ教授（書記）、畑山満則教授、横松宗太准教授（会計）の4人の理事を輩出している。

学会は毎年国際会議を開催し、2018年の今回は第9回の会議となる。例年、約20カ国から200人ほどの研究者や実務者、博士課程学生らが集い、災害のリスクガバナンスの構築のための学際的・分野横断的な議論を行っている。世界に総合防災のネットワークを拡張することを目的として、開催地を毎回移して、現地から多くの新しい参加者を得ている。

今回は初めてのオセアニアかつ南半球での開催となる。そしてテーマは、現地事務局であるオーストラリア連邦科学産業研究機構(CSIRO)も大きな関心をもつ、ビッグデータのマネジメントとなる。さまざまな分野がビッグデータの整備と利用を取り込んだ発展を遂げる中で、災害分野でもデータの共有の重要性が認識される一方で、災害分野特有の難しさも認識されてきた。今回、データ問題を会議の中心テーマに設定したことには大きな意義がある。

恒例の若手研究者セッションには、毎年、防災研から多くの大学院学生が参加して、国際的な研究者を目指す足がかりとして貴重な機会となっている。また同学会には国際応用システム分析研究所(IIASA)など、GADRIに参画している機関も多く、それらとの連携が強化されることも期待される。

(2) 成果のまとめ

今回は「総合的災害マネジメントに向けたデータ主導のアプローチ(Data Driven Approaches to Integrated Disaster Management)」をテーマとし、総合防災の実践のために、主体間・分野間で数值的・質的データをいかに

整備して、共有し、活用していくかについて多角的に議論した。6件の基調講演の講演者とタイトル、2つのパネルディスカッションのテーマを以下に記す。

<基調講演>

1. Robert Glasser 博士 「気候変動の波及的インパクト：災害マネジメントへの含意(The Cascading Impacts of Climate Change: Implications for Disaster Management)」
2. Ilan Noy 教授「退屈なトピックに関する陰鬱な分析:災害保険に関する経済的見通し(A Dismal Examination of a Boring Topic: An Economic Perspective on Disaster Insurance)」
3. John Handmer 教授「レジリエントな国家?21世紀のオーストラリア(Resilient Nation? Australia in the 21st Century)」
4. Sarah Barker 氏 「気候変動：なぜ金融市場が巻き込まれているのか?(Climate change: why are financial markets getting involved?)」
5. Anne Hale Miglarese 氏 「コンピュータ技術の収束, 地球観測, 鎧を脱いだ技術革新と人間性 (The Convergence of Computer Technology, Earth Observations, Unharnessed Innovation and Humanity)」
6. Stephanie Chang 教授 「レジリエンスのためのデータ主導のリスク類型学の発展 (Developing data-driven typologies of risk for resilience)」

<パネルディスカッション>

1. 「総合的災害リスクマネジメントにおけるデータの役割 (The role of Data in Integrated Disaster Risk Management)」
2. 「都市と政策の発展過程における, ハザード・脆弱性・リスクデータの役割 (The role of hazard, vulnerability, and risk data in urban and policy development)」

また、18の口頭発表セッション、1つの一般ポスターセッション、そして博士課程学生を対象とした若手研究者セッションが行われた。本会議の議論の成果を素に IDRiM Journal に特集号を企画している。2010年の学会創設以来、毎年開催してきた本国際会議は今回で9回目となる。これまでの取り組みによって、総合防災(Integrated Disaster Risk Management, IDRiM)のコンセプトや重要性への認知や理解は着実に向上している。今回は初めてのオセアニアでの開催となり、ネットワークの拡大においても意義がある会議となった。

(3)プログラム

<https://www.confer.nz/idrim2018/programme/>

(4)研究成果の公表

<http://idrimjournal.com/>

<http://idrim.org/>

<https://www.confer.nz/idrim2018/>